

オランダのデザイナー展「トレジャー・ハント：心を捉えるものは何？」

2009年10月31日 03:40

近年注目を集めているオランダのアートやデザイン。その最先端で活躍するデザイナー6組による展覧会「トレジャー・ハント：心を捉えるものは何？」‘Treasure Hunt-Vanitas or Humanitas’が東京・西麻布のギャラリー ル・ペインにて開催中だ。

左から、マルタン・エンブルプレクト、リアン・マッキンク、ベルトヤン・ポット、アム・ヴァン・デル・ルブ

世界的な経済不況や治安悪化が続く状況の中、モノを作るデザイナーたちは、今まで以上にデザインの役割について考えてきた。この展覧会では、単なるビジュアル重視のデザインではなく、そこに深い意味と機能性、さらには人間の温もりを持ったデザインが紹介されている。6組のデザイナーによるインテリア・空間・生活スタイルの提案を通して「大切なもの、心を捉えるもの」を、訪れた人々に投げかける。 ギャラリーを出た吹き抜けの中庭に展示されているのは、マルタン・エンブルプレクトの「ご近所ショップ」。彼のクリエイティブチームは“人とのコミュニケーション”をコンセプトに、人の行動心理を観察して様々なプロジェクトを発表してきた。こちらの作品は、近代化が進むにつれ減少してきた「ご近所付き合い」に着目。



「ご近所ショップ」

背景には、中東、トルコからの移民問題を抱えるオランダの社会情勢がある。犯罪の多い今の時代、ご近所付き合いを深く持つことでその不安を改善したいという気持ちが込められている。“モノ”の美的価値よりも何かをプレゼントしようということ、さらにはコミュニケーションの重要性を訴えた作品だ。

この他、理想的なオフィス空間を提案する作品、自給自足をコンセプトにした映像作品など、様々な視点でメッセージを発信する。

展覧会のタイトルにある「Vanitas」とは、虚栄心、はかなさという意味、一方「Humanitas」は人間らしさという意味を持つ。モノに事欠かない今の社会で、それでもなお私たちの心を動かすものは何なのか。深いメッセージが込められたこれらの作品から、観る人それぞれにとっての“大切なもの”を探るきっかけを与えてくれそうだ。

オランダのデザイナー6組による展覧会

「トレジャー・ハント：心を捉えるものは何？」‘Treasure Hunt-Vanitas or Humanitas’

ギャラリー ル・ペイン 東京都港区西麻布3-16-28

開催中～11月13日（金）月休

Open.11:00～19:00 ※最終日は16:00まで

お問い合わせ：ギャラリー ル・ペイン tel.03-3479-3843

ギャラリール・ペイン